

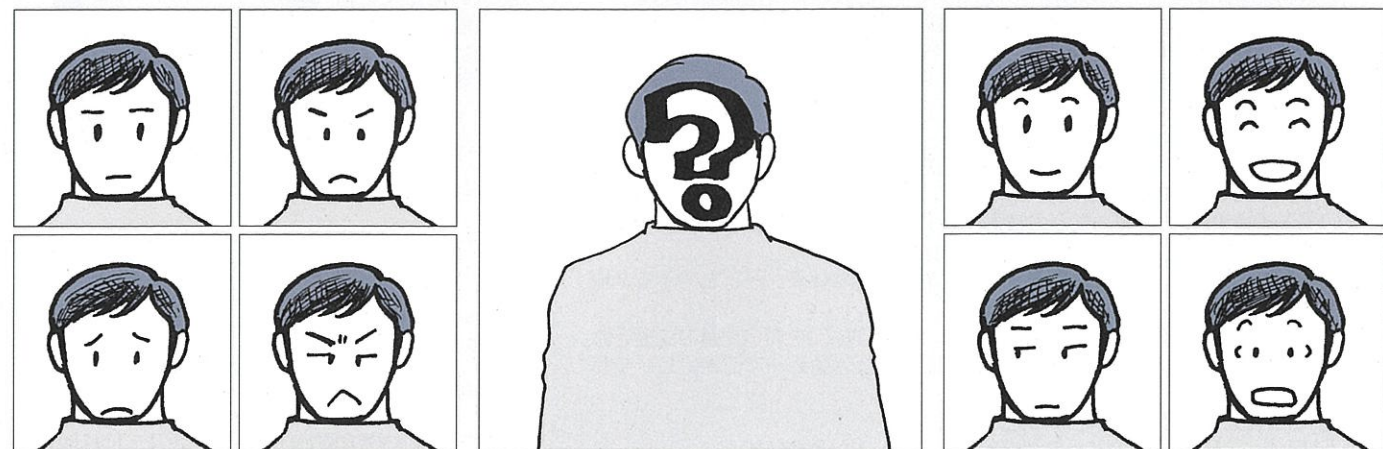
ハーブティ

～女と男をかんがえる～ ハーブティ:「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

最近あなたは笑っていますか？

昨年、保険会社が行ったアンケートによると「女性に比べて男性の方が笑う時間が短い、さらに年齢が上がるにつれて、笑う時間がもっと短くなっている」という結果が報告されました。確かに笑顔の女性は多く見られますが、男性は少ないように思われます。

例えば下のような場面では、男性はどのような表情をしていると思いますか？



男性の表情について、みなさんはどのイラストを選ばれたでしょうか？
〈女性 = 笑顔〉の図式がさほど違和感なく浮かんでくるのに対して、男性の場合はなかなかイメージが湧かず、悩んだ方も多いのではないのでしょうか？

それは、大半の男性が1日の多くの時間を職場で過ごしていること、それ故、どうしても地域や家庭などにおいて、交流の場が少なくなってしまうことと無関係ではないかもしれません。でも、果たしてそれだけが理由なのでしょうか？

一つの例ですが、昔からよく、「男は度胸、女は愛嬌」など女性に表情の豊かさを求める言葉が使われてきました。今では、もしかすると死語に近いのかもしれませんが、でも、このような言葉のイメージが人々の頭の片隅に残っていたら、無意識のうちに、男性が笑顔に対して消極的になってしまうのも、理解できるような気がするのです。

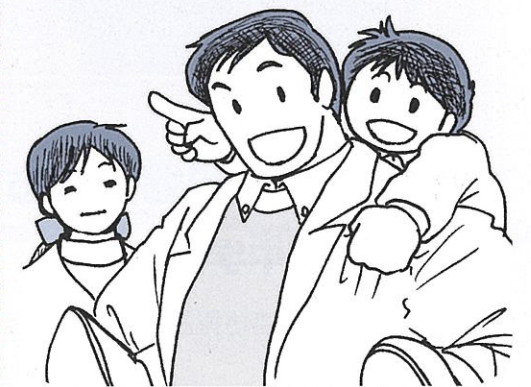
でも、今は「笑顔」に男性、女性の境界線はないはず。職場に限らず色々なところで、笑顔はその力を平等に発揮することでしょう。そして、何よりも笑顔を向けられただけで、勇気づけられたり、励まされたり、幸せな気持ちになった経験を持たれた方も大勢いらっしゃると思います。女性の笑顔と同じだけ、もしかしたらそれ以上に男性も笑えるはず…。「女も男も度胸と愛嬌」という新語ができたらと期待しつつ、『スマイル、笑顔のある生活』あらためてみなさんに提案したいと思います。

おわりに……

女性の笑顔の時間…男性の2倍以上という新聞の見出しがふと目にとまり、それが今回のテーマを決めるきっかけとなりました。

「笑顔という表現方法に性差があるなんて!」という新鮮な驚きと素朴な疑問が生まれました。そこで男性サイドにもフラッシュをあててみました。男性の置かれている立場、現実、それから昔からの払拭しきれない固定観念などいろいろな要素が浮かんできました。

その中で、一つ見えてきたものがあります。それは「笑顔」はコミュニケーションの潤滑油ではないだろうかということです。笑顔こそ気持ちを伝える最もシンプルで素敵な表現方法だと思います。これからは、女性も男性も同じラインに立って「笑顔の力」、もっと広めてみませんか？



政策財政課人権担当 内線366
しらおか男女共生広報紙編集委員
小野寺晴美 笠井朋子(イラスト)
ご意見、ご感想をお待ちしております。